

**スポーツツーリズムによるまちづくり
和歌山県のスポーツイベントを事例として
Local Revitalization through sports tourism :
In a case of sport event of Wakayama Prefecture**

1K06B250

和田 綾美

指導教員 主査 作野 誠一 先生

副査 木村 和彦 先生

【緒言】

筆者は旅行が趣味である。大学のサークル活動においても旅行サークルに所属し、仲間とともに国内外問わず多くの場所を旅してきた。その中で、多くのスポーツツーリズムに出会い、その素晴らしさを何度も体験してきた。以前、「スポーツツーリズム」という言葉は耳にする機会が少なく、多くの人に認知される存在ではなかったが、現在ではツーリズム市場において成長を続けている分野である。また、筆者の出身地である和歌山県のように観光アトラクションとよぶことができるものが少ない地域では、観光客を誘致することも目的の一つとしてスポーツを活用することがある。

本研究は、スポーツツーリズムは地域振興、ツーリズムの活性化など、様々な効果を地域にもたらすことができ、観光アトラクションが少ないと思われる和歌山県において、ツーリズムにおける課題を把握し、その活性化を図る方法、可能性を探り、今後の地域の活性化、スポーツ、ツーリズムの発展に貢献できる提案をすることを目的とする。

【研究方法】

本研究においては、和歌山市教育委員会体育振興課職員 1 名、和歌山県商工観光労働部観光局観光振興課職員 1 名、スポーツイベント参加者 1 名を対象に調査的面接法を行い、それをもとに和歌山県におけるスポーツツーリズムの課題を具体的に探る。面接調査では主にそれぞれ

が考える和歌山県のツーリズムの魅力、課題、スポーツによるツーリズムについて質問をし、面接者が必要だと判断した場合は、回答についての追加質問や質問についての補足などを求め、自由回答によるデータを収集した。

【結果と考察】

和歌山市教育委員会体育振興課職員、和歌山県商工観光労働部観光局観光振興課職員、スポーツイベント参加者の 3 名の回答結果として、和歌山県のツーリズムにおける課題は利便性の悪さ、情報提供の少なさであることが明らかになった。また、他の地域よりも自然が豊かであるという地域の特性を活かすことができるスポーツは和歌山のツーリズムにとっては重要な存在であり、スポーツイベントはまちづくりに貢献することがわかった。

【まとめ】

観光アトラクションが少ない和歌山県において、スポーツは観光産業にとってなくてはならない存在であるが、利便性、情報発信性などの課題がある。それを解決し、さらに多くのスポーツツーリストを和歌山県に誘客するための提案として、旅行会社と提携する、空港からの直通バスを出す、マスコミとの関係構築、パーク&バスライド方法の採用などの案が考えられたが、いずれにしても、イベント自体の努力とともに、他の組織との連携が必要になる。そのためには、地域住民を含めた多くの人のスポー

ツツーリズムに対する理解が必要になる。今後、和歌山県においてスポーツツーリズムをより発展させるためには、地域の特性を性格に把握した上で、スポーツを単なる健康増進のための場として考えるのではなく、スポーツとツーリズムのより強い関係性、さらには多くの人を巻き込んだスポーツツーリズムに対する理解が必要である。